

埼玉県における産業動向と見通し

産業天気図は、現状・今後とも業種によるバラツキがみられる

概況

わが国の景気は、このところ一部で足踏みがみられるが、総じて緩やかに回復している。埼玉県の景気は、緩やかに持ち直している。

先行きについては、物価の高止まりを背景に個人消費の足取りが重くなっているものの、前年を上回る賃上げが実現することで個人消費は持ち直しに向かうとみられる。堅調な企業業績に裏付けられた設備投資も後押しとなり、景気の持ち直しが続くことが期待される。一部自動車メーカーの認証不正による、県内製造業の減産の影響の有無には留意したい。

聞き取り調査の結果、埼玉県の1~3月期の産業天気図は、輸送機械、建設、百貨店・スーパーが「薄日」となる一方、鉄鋼が「曇り」、一般機械、電気機械が「小雨」となり、業種によるバラツキがみられた。

4~6月期も、「薄日」が3業種、「曇り」が1業種、「小雨」が2業種と1~3月期と同様、業種によるバラツキがみられた。

主要産業の動向は、以下の通り。

○一般機械の生産は、前年を下回ったとみられる。先行きは、前年並み程度の水準で推移するとみられる。

○電気機械の生産は、大幅な減少が続いている。先行きは弱い動きが続くものの、徐々に持ち直していくとみられる。

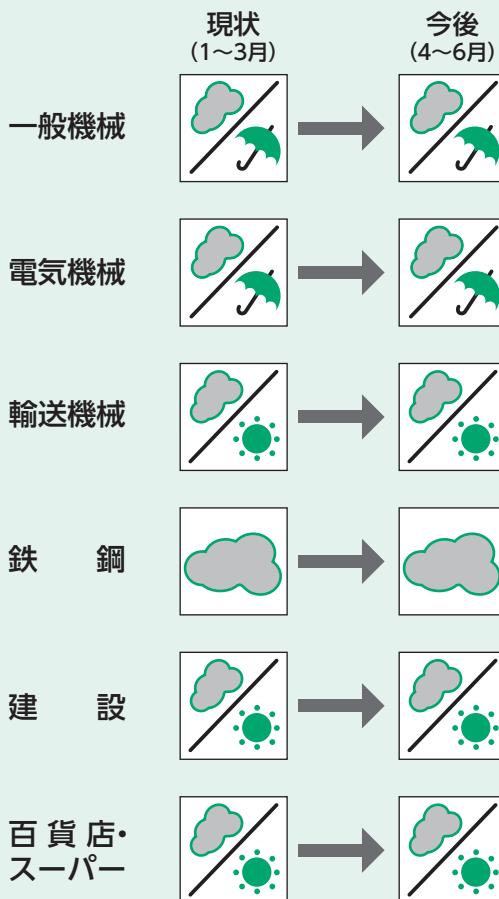
○輸送機械の乗用車生産は、前年を上回ったとみられる。先行きも、受注残があり半導体不足が解消したため、増加が続くと予想される。

○鉄鋼の生産は、前年を下回ったとみられる。先行きも前年を下回って推移しよう。

○建設は、公共、民間ともに手持ちの工事量は多く堅調な推移が続いている。住宅も前年並みの着工状況が続いている。先行きも堅調な動きが見込まれる。

○百貨店は高額品の売上増が続いたが全体では前

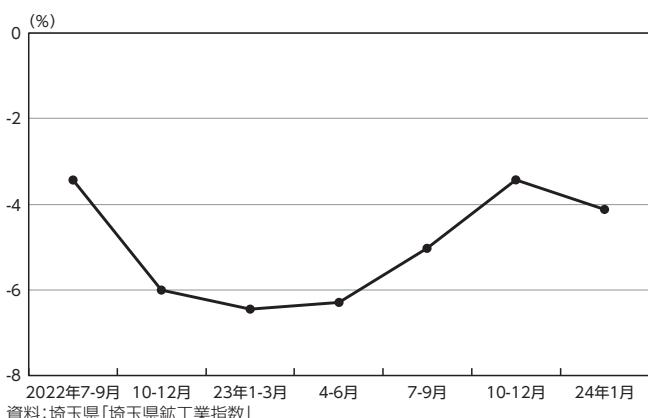
産業天気図



天気図の見方



●鉱工業生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



年をやや下回り、**スーパー**の売上は前年を上回ったとみられる。先行きもこうした傾向が続くと予想される。

主要産業の動向

(1)一般機械…生産は前年を下回る

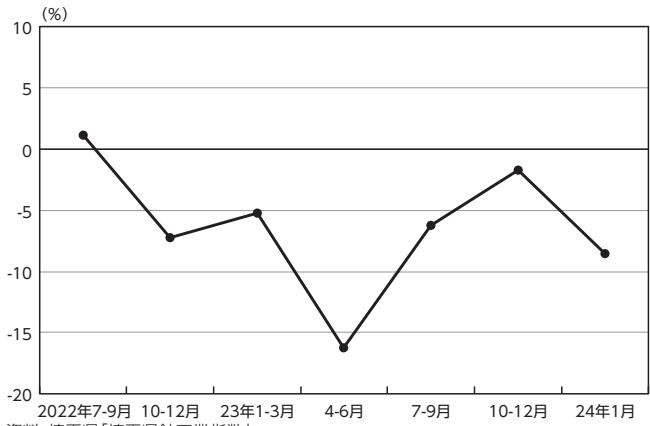
県内的一般機械(汎用機械+生産用機械+業務用機械)の生産指数は、前年比▲1.7%となった昨年10~12月期まで、5四半期連続で前年を下回って推移してきた。生産用機械が直近2四半期連続で前年を上回っているものの、汎用機械が3四半期連続で、業務用機械は4四半期連続で前年を下回っている。本年1月についても、同▲8.5%と前年割れが続いている。1~3月期を通して、一般機械の生産は前年を下回ったとみられる。

内訳をみると、汎用機械では、好調に推移してきた空気圧機器が、工作機械受注の減速を受けて、昨年の春頃から減少に転じた。生産の水準は依然として高いものの、前年を下回っている。歯車も、工作機械向けの減少などから、前年を下回って推移している。金型は低調な動きが続いているが、足元では持ち直しの動きがみられる。

生産用機械では、パソコン・スマホ向け半導体の需要の落ち込みを受けて、全国的に半導体製造装置の生産が減少していたが、昨年秋頃から持ち直しに転じた。低調な動きが続いている県内の半導体製造装置についても、昨年の春頃から徐々に持ち直し、秋口以降は前年を上回っている。フラットパネルディスプレイ製造装置も、足元の生産は持ち直しているとみられる。業務用機械では、医療用機械器具は、昨年の春先に生産が落ち込んで以降は、おおむね横ばい水準での推移となっている。

先行きをみると、一般機械の生産は前年並み程度の水準で推移するとみられる。汎用機械では、工作機械受注の動きが弱いこともあって、空気圧機器は前年を下回って推移しよう。生産用機械では、半導体

●一般機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



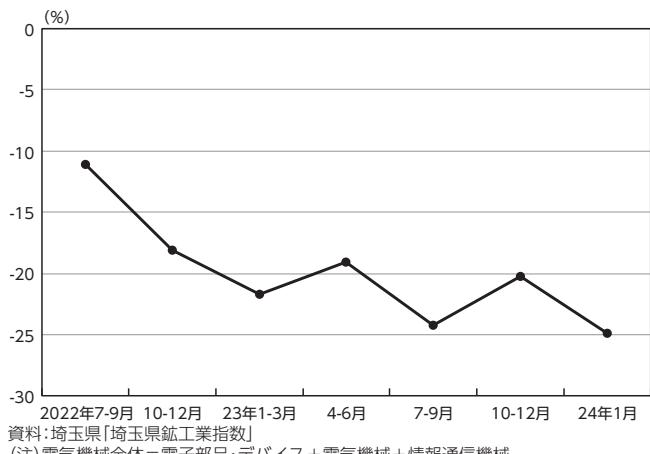
製造装置が当面持ち直しの動きを続けるとみられることから、前年を上回って推移すると見込まれる。業務用機械では、医療用機械器具は、おおむね前年並みでの推移を続けよう。

収益面では、非鉄金属や潤滑油など、様々な原材料の価格に加えて、配送費や人件費も上昇するなか、製品への価格転嫁が十分に進んでおらず、収益状況の厳しい企業が少なくない。この先も企業収益は厳しい状況が続くとみられる。

(2)電気機械…生産は大幅な減少が続いている

県内の電気機械(電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械)の生産指数は、昨年7~9月期前年比▲24.2%、10~12月期同▲20.3%と大幅なマイ

●電気機械全体の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



ナスが続いている。本年1~3月期もマイナスで推移した模様。コロナ禍で需要が大きく増加したPC・スマートなどの反動減が長引いていることや、中国経済の停滞に伴う、生産用機械などの需要減の影響を受けている。

電子部品・デバイスの生産は、昨年7~9月期前年比▲19.3%、10~12月期同▲22.7%となり、本年1~3月期もマイナスが続いたとみられる。全国も2023年中は7~9月期まで2桁の大幅な減少が続いたが、10~12月期は同▲0.1%、1~3月期はプラスとなった模様で、持ち直してきており、足元では埼玉県の不調が目立っている。スマホやPCをはじめとする情報通信機器向けや白物家電向けも調整局面が続いていることから、こうした製品に関連する、集積回路や電子回路基板などの生産の減少が続いている。また、海外を中心に産業用機械の需要が弱んでおり、こうした製品向けの部品も調整が続いている。一方、自動車向けは、自動車の生産が回復していることに加え、電子制御や安全装置のための使用部品の点数が多くなっており好調な動きが続いている。

なお、電子部品・デバイスでは一部製品について、県内での生産を取り止めたものもあるようで、県内の生産の弱さについてはその影響も出ているようだ。

電気機械の生産は、昨年7~9月期前年比▲23.0%、10~12月期同▲16.9%となり、本年1~3月期もマイナスで推移した模様。電気機械は県内で生産されるものは、制御機器や計測機器など産業向けが多く、生産用機械などに組み込まれ海外へ輸出されることも多い。国内の設備投資は持ち直しているものの、工場建設が遅れるなどの問題があることや、海外需要がやや弱くなっていることから、産業用機械向けの電気機械は弱い動きとなっている。

情報通信機械の生産は、昨年7~9月期前年比▲28.7%、10~12月期同▲24.4%となり、本年1~3月期も前年比マイナスが続いたとみられる。現在県内での情報通信機械の生産はカーナビ、カーオー

ディオ、業務用通信機器、交換機などであるが、カーナビのウェイトが大きい。このところ、県内でのカーナビなどの生産が減少を続けている。

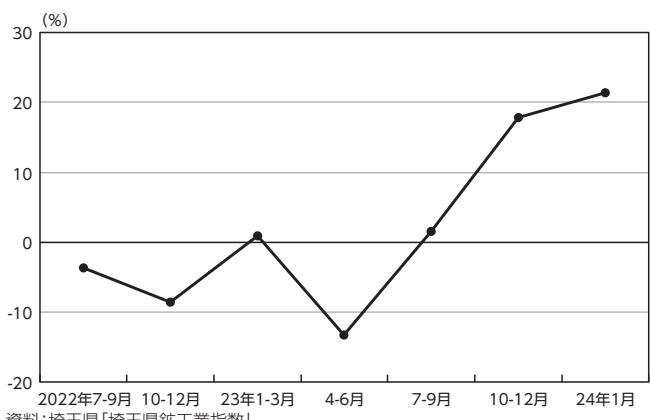
先行きについては、電子部品・デバイスは製品により好・不調がはっきりしているが、自動車向けが好調なことから全体として持ち直していくとみられる。電気機械は産業向けを中心に徐々に持ち直していくとみられる。情報通信機器は変動幅が大きいが、先行きは持ち直しが期待される。電気機械全体では弱い動きが続くものの、徐々に持ち直すとみられる。長期的には、自動車向け電子部品の需要増や、情報・通信環境の整備に伴う需要増が期待される。

(3)輸送機械…生産は前年を上回る

県内の乗用車販売台数（軽を含む）は、昨年1~3月期以降、半導体不足が解消に向かい前年比2ケタ増が続いていたが、本年1~3月期は一部自動車メーカーの認証不正による生産・出荷停止の影響で、2四半期ぶりに前年を下回ったとみられる。コロナ前の2019年対比でも減少しており、県内の乗用車販売はコロナ前の水準には戻っていない。

生産動向をみると、県内の輸送機械（乗用車・トラック・自動車部品等を含む）の生産指数は、昨年7~9月期に前年比+1.6%と2四半期ぶりに増加に転じた。10~12月期も同+17.8%と2四半期連続で増加した。とくに10~12月期は、半導体不足が解消し、そ

●輸送機械の生産指数（前年比）の推移（埼玉県）



れまで納入できていなかった受注残分の生産が進んだため大幅な増加となった。こうした傾向が続き、本年1~3月期の県内生産も前年を上回ったとみられる。

先行きの生産も、受注残があり、半導体不足が解消し供給網が正常化したため、増加が続くと予想される。

トラックの生産は、半導体不足等の影響が緩和しているものの、1~3月期は前年を下回った模様である。トラックに対する需要面では、都心部でマンション・商業施設・オフィスビルなどの再開発が続き、物流施設の建設も活発に行われているが、宅配便数量が低迷するなど強弱入り混じった状況にある。

先行きも、こうした傾向が続くとみられ、生産は弱含みで推移すると予想される。

部品メーカーでは、生産は完成車メーカーと同様に推移したとみられる。収益面では、原材料等の高騰を製品価格に転嫁しきれず、厳しい状況が続いているようだ。

先行きについては、乗用車部品メーカーの生産は、完成車メーカーと同様に上向くと予想される。トラック部品メーカーについては、大手メーカーのエンジン不正問題に伴う出荷停止があり、その後一部車種の出荷再開があったが、完成車の生産が弱含むため生産は低迷するとみられる。

(4) 鉄鋼 …生産は前年を下回る

県内の鉄鋼の生産指数は、昨年10~12月期の前年比▲9.0%まで、4四半期連続で前年を下回って推移してきた。本年1月についても、同▲13.4%と前年割れになっており、1~3月期を通して、鉄鋼の生産は前年を下回ったとみられる。

鉄筋コンクリート造に使用される棒鋼の生産は、前年を下回っている。首都圏では、土木工事は比較的底堅く推移しているが、建築工事はこのところやや減少している。また、建築現場では、監督や作業員を確保することが難しくなっており、人手不足による工事

の進捗の遅れが、棒鋼の生産に影響するケースもでているようだ。

内訳をみると、海外からの観光客の増加を受けて、ホテルの着工は引き続き好調だが、ショッピングモールなどはこれまでより若干減速している。物流センターの着工も続いているが、これまでの水準が高かったこと也有って、足元では前年を下回っている。分譲マンションの着工は、都内でやや減少しているものの、首都圏全体でみればおおむね前年並みとなっている。通信関連の基地局などは比較的底堅く推移している。

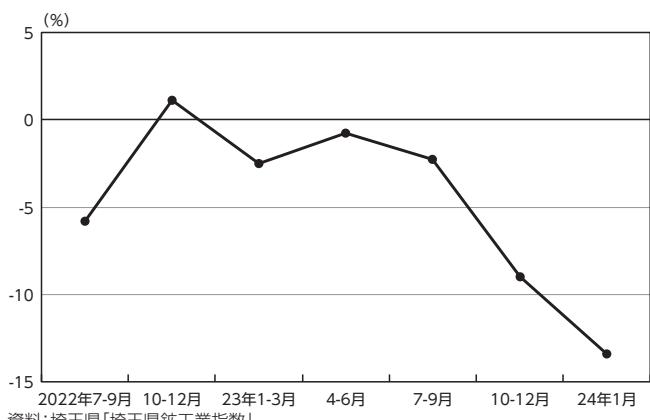
人手不足のなかで、本年4月から建設業従事者に関する時間外規制が強化されたこと也有って、建築の工事量は前年割れの状況が続くとみられる。鉄鋼の生産は、先行きも前年を下回って推移しよう。

鋼材の主原料であるスクラップの価格は、おおむね横ばい水準で推移している。副資材等の価格は高止まりしているものの、製品価格は一定のスプレッドが確保されており、足元の電炉メーカーの収益状況は堅調に推移している。

鋳物の生産は前年を下回っている。鋳鉄管は底堅く推移しているとみられるものの、昨年秋口以降の機械受注の減速を受けて、建設機械向けや工作機械向けが減少している。

先行きも工作機械向けなどの減少が続くとみられることから、鋳物の生産は前年を下回る水準で推移しよう。収益面では、電気料金や副資材価格の上昇

●鉄鋼の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



などから、電炉のコストが押し上げられている。鋳物用銑鉄の価格引き上げもあって、鋳物メーカーの収益は厳しい状況が続くとみられる。

(5)建設…堅調な動きが続く

公共工事：県内の公共工事請負金額は昨年7～9月期前年比+9.3%、10～12月期同+19.0%、本年1～3月期同▲3.6%となった。

公共工事は受注残が多く、足元の工事量も高水準で安定している。資材価格は、落ち着いてきているが、工賃が上昇している。新規受注の工事については、価格の上乗せを行っており、価格転嫁は比較的順調に進んでいる模様。

公共工事の内容は、建物をはじめ、河川、橋梁、道路なども老朽化に対応するための改修・補修工事が多く、新規の建設案件は少ない。

先行きは、老朽化対策に加え、災害対策のための工事も増加すると期待されており、繁忙な状況が続くとみられる。資材価格も落ち着いてきたことから、収益面でも安定した推移が見込まれる。ただ、従業員の高齢化、週休2日制の導入、2024年問題ともいわれる残業規制などへの対応が懸念されている。

民間工事：県内の非居住用の建築着工床面積は、昨年7～9月期前年比▲46.5%、10～12月期同▲18.9%となり、本年1～3月期もマイナスで推移した模様。月毎の振れはあるものの、民間工事は着工ベースで大幅なマイナスが続いている。ただ、受注残は相応にあり、工事量は大きな落ち込みとはなっていない。

用途別ではウェイトの高い運輸業用は一時の勢いが鈍化し、ここ1年ほどは、大きな落ち込みを続けている。製造業用も、建設価格の上昇などから、一部先送りや見合せの動きから、大幅な減少となっている。商業用や宿泊・飲食サービス用、サービス業用は持ち直しの動きがみられる。

先行きは、都内での受注競争が激しくなると、県内での受注に影響する懸念もあるが、都内では再開発

など大型案件の工事が続いている、県内では当面、工事量、価格面とも現状程度で推移する見込み。

住宅：昨年7～9月期の新設住宅着工戸数は前年比▲0.9%、10～12月期は同+9.8%、本年1～3月期は同横ばいとなった模様。住宅の着工戸数は堅調な動きが続いている。

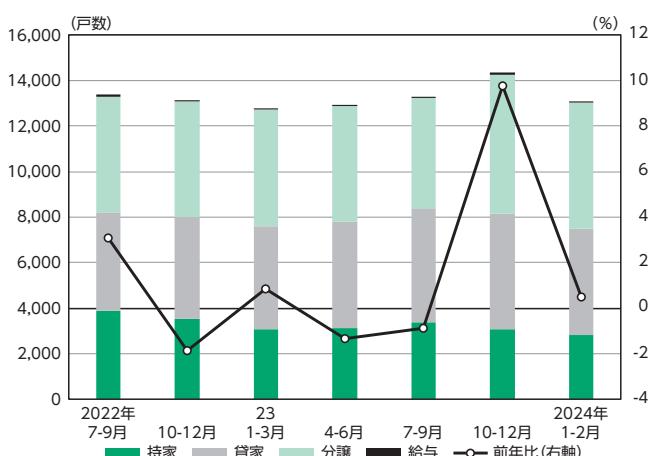
マンションは、供給戸数の減少、販売面での低調な動きがみられ、販売価格についても落ち着いてきている。これは、適地が少なくなっていることにより、利便性にやや劣る物件の販売が多くなったためとみられる。ただ、現在、県南部など利便性が高く、人気の高い場所で大型物件の工事が始まっていることなどから、今後、供給戸数の増加や価格の持ち直しが予想されている。

戸建の分譲住宅は、物件価格の上昇や物価の上昇に加え、金利の動向を見極めようとする動きもあり、購入に慎重な動きがみられ、販売面でやや低調な動きとなっている。

貸家は、持ち直しの動きが続いている。持家については、低調な動きが続いている。

先行きは、住宅全般について、物価高や金利動向、物件価格の上昇など懸念される点もあるが、所得面での改善も期待されることから、現状程度の動きが続くと予想される。

●新設住宅着工戸数の推移(埼玉県)



資料:国土交通省「建築着工統計調査」

(注)直近の2024年1-2月の利用関係別着工戸数は、1月・2月の値を四半期化

(6)百貨店・スーパー…スーパー売上は増加

百貨店：昨年5月のコロナの5類への移行後、人々の活動が活発化し売上増が続いているが、コロナ5類移行後の売上増も一巡しつつある。増加率は縮小しており、前年割れとなった月も見られた。1~3月期の売上は前年をやや下回ったとみられる。コロナ前の2019年の水準には届いておらず、県内百貨店の売上はコロナ前には戻っていない。

品目別では、主力の衣料品は、暖冬の影響からコート等の防寒アイテムが低調で前年割れとなったようだ。行動制限がなくなり外出機会が増加したため、外出着や靴、化粧品などの販売は堅調だった。食料品の売上は、値上げの影響で以前に比べ伸びが鈍っているが、総菜の売上は好調だった。物産展などの催事は好調が続いたほか、レストランなどの飲食や手土産なども増加した。インバウンド（訪日外国人）による消費は増加しているが、県内では全体に占める割合が僅かで売上への影響は小さい。

高額品は引き続き堅調に推移している。宝飾、貴金属、時計、バッグ、財布などの高級ブランド品は増加を続けている。富裕層を中心の外商の売上も増加している。一方、中間層の消費は、食料品などの値上げで生活防衛色を強めている。

また、セールの頻度は以前に比べ減ってきており、セールの規模も小さくなる傾向にある。顧客の購買姿勢が、「安いから買う」から「欲しいものを欲しい時に買う」に変化しており、セール期間中でも値下げをしない正価品の売れ行きが良かった。

先行きは、高額品の売上増は続くとみられるが、コロナ後の消費増の一巡や節約志向の高まりなど懸念は残る。

スーパー：1~3月期の売上は前年を上回ったようだ。コロナ前の2019年比でみても増加が続いている。スーパーの売上は堅調に推移している。人流回復による客数増、値上げに伴う客単価上昇により、売上は前年を上回っているが、消費者の節約志向の高まり

から買い上げ点数は減少している。

品目別では、衣料品はやや減少したものの、食料品は増加したとみられる。暖冬で気温が高く推移し、コートなどの冬物衣料の販売が振るわなかった。主力の食料品は、値上げによる価格上昇の影響もあり前年を上回って推移している。外食に比べ割安感のある惣菜や健康志向の食品が堅調である。

物価上昇による消費者の節約志向の強まりに対応し食品の特売が増えており、またメーカー製品よりも割安なプライベートブランド（PB）では、製品の拡充や値下げを行いPBの販売が伸びている。大型サイズで値ごろ感のある商品がよく売れているほか、まとめ買いも多くなっている。消費者は、ハレの日には高額品を買う一方、生活必需品は節約するという2極化が強まっている。コロナ禍で利用が増加していたネットスーパーの売上は伸び悩んでいる。行動制限がなくなり外出機会が増加し、実店舗での購入が増えていくためとみられる。

また、人手不足が深刻になっている。とくに夜間の人手確保が難しくなっているとの指摘があった。

先行きについては、物価上昇で商品単価の上昇が続くため、スーパーの売上増は今後も続くとみられる。企業の賃上げの動きが強まっているが、物価が上昇し実質賃金が伸び悩んでおり、消費者の節約志向は今後も根強いとみられる。

●百貨店・スーパー販売額（前年比）の推移（埼玉県、既存店）

